

宇都宮美術館

学芸員と一緒に授業を展開してみませんか 「トビダス美術館とスクールプログラム」

【トビダス美術館・スクールプログラムとは】

宇都宮美術館では、学校との連携事業として、学芸員が積極的にかかわることで次の2事業が行われている。

①「トビダス美術館」～美術館から学校への出前授業～

図工・美術における「鑑賞」活動を学芸員がサポートし、教員と一緒に授業を作り上げる。学校担当者との打合せの上、可能な限りオーダーメイドの内容を展開する。平成17年度から事業を開始し、利用校の数は、平成17年度8校、平成18、19年度は12校、平成20年度は13校となっている。利用に当たっては、美術館が作成・発行し、市内の学校へ配布している。「t o b i d a s トビダス美術館 教師のための宇都宮美術館利用ガイド」の中で、トビダス美術館の活用の仕方として、これまでの活動事例や、「鑑賞を目的とした授業」「作家についての授業」「教材を使った授業」「他教科との組み合わせ授業」の4点にまとめ、それらを参考に各学校で希望する授業を展開できるようにしている。



ガイドには、「『トビダス美術館』をとおして美術に関心をもつことができれば、ぜひ美術館を訪ねてください。」とまとめられている。

②学校団体向けのスクール・プログラム

宇都宮美術館では、「自由鑑賞コース」「ワークシートコース」「美術館探検コース」「バリアフリー体験コース」「ガイド・ボランティアコース」「対話型鑑賞コース」等多様なプログラムを用意し、滞在時間や人数、目的に合わせて選択したり、いくつかを組み合わせたりすることができる鑑賞コースが展開できるようになっている。

過去の利用状況は、平成17年度63校、平成18年度73校、平成19年度65校、平成20年度67校となっている。

効果的な鑑賞の手法として、「対話型作品鑑賞」を取り入れている。この手法は、1990年代から美術館教育の中に採り入れられたものであり、15人以下のグループに分かれ、作品解説ボランティアの方々と対話をしながら作品を鑑賞するものである。子どもたちの内面にひそむ豊かな感受性を引き出し、子ども同士のかかわりを深めるためにも有効である。



【学校との連携事業の実際】

宇都宮美術館では、左記の活動以外にも、学校との連携に関する取組として、以下のことを実施した。

「小中学生による学校所蔵品再発見プロジェクト Re+Collections」

学校と美術館との連携の集大成として、平成20年度の1年間をかけて行ったプロジェクトである。学校に所蔵されているが、児童生徒や地域住民が目にする機会が少ない、美術工芸品を、児童生徒、教職員の目で再発見し、活用方法について地域の人々とともに考えていこうとするものである。宇都宮市内小中学校60校を訪問調査し、約400点の作品をデータベース化した。また、中学生（3校11名）が2か月かけて学校所蔵品による企画展を準備し、展覧会を実施したり、「美術鑑賞教育ネットワークとちぎ」との協働により、授業で利用できる教材を開発した。

【成果と課題】

○表現と鑑賞の向上に向けて

平成14年度からの学習指導要領にもうたわれている図工の「鑑賞」の領域に関し、美術館の果たす役割は大きくなっていく。子どもたちが、教科書だけでなく、本物の美術品にふれることにより、情操面や豊かな感受性をはぐくむことに寄与している。

○図工の学習だけでなく、バックヤードツアー等のプログラムは、美術館で働く職員の仕事や、収蔵庫の見学をとおり、社会科の学習教材としても活用できる。

○立地条件克服

現在同館は、小中学生の児童生徒の利用は無料化して利用促進を図っている。

美術館利用については、美術館の立地場所の条件から各学校の理解がなかなかすすまないことが課題である。美術館に来館するための交通手段・予算が不足していること、鑑賞プログラム等を各学校に配布しているが、広報周知が十分でない現状がある。

《施設データ》

館 名 : 宇都宮美術館
所在地 : 〒320-0004
栃木県宇都宮市長岡町1077
電 話 : 028-643-0100
FAX : 028-643-0895
設置年 : 平成9年3月
設置主体 : 宇都宮市
財団法人うつのみや文化創造財団
ホームページ : <http://u-moa.jp/>
入館者数 : 平成20年度 81,174人

